目次

基本的なファイルオプションの使用 1
基本的なファイルオプションの使用: イントロダクション 1
新しい測定ルーチンの作成 1
既存の測定ルーチン 2
測定ルーチンの保存 4
新名で保存する 5
測定ルーチンのアーカイブを使用した操作 8
ファイル操作の実行 8
鏡面対称表示 9
コピー 13
削除する 14
名前の変更 14
Teamcenterへの接続 15
言語変更 16
グラフィックの表示ウィンドウの印刷 16
グラフィックの表示ウィンドウ用の出力設定とプリンタ オプション設定 16
印刷作業のプレビュー 17
レポートウィンドウの印刷 18
レポートウィンドウの出力およびプリンタオプションの設定 19
測定ルーチンを閉じて終了する 38
既存のPC-DMIS 39

基本的なファイルオプションの使用

基本的なファイルオプションの使用: イントロダクション

PC-DMISは、測定ルーチンを操作し、お客様の重要なファイルを管理するための数多くのオプションを提供します。ほとんどのWindowsベースのプログラムと同様、Windows標準ダイアログボックスを用いて基本的なファイル管理ができます。これらには、ファイル作成、ファイを開く、コピー、名前の変更、ファイルの削除といった操作が含まれます。これに加え、PC-DMISを通して、CADデータのインポート及びエクスポート、または完成した測定ルーチンの実行など、さらに高度なオペレーションも行えます。

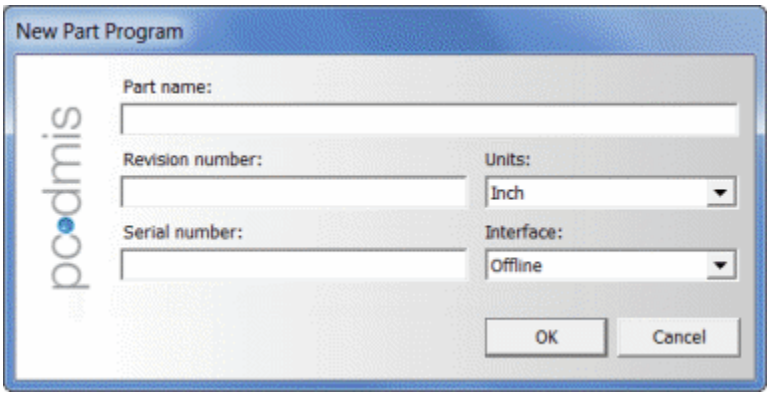
この章では、特に基本のファイルオプションについて記述しています。より高度なオプションについては、「高度なファイルオプションの使用」の章を参照して下さい。

この章に記述されているオプションは以下のとおりです:

- 新しい測定ルーチンの作成
- 既存の測定ルーチンを開く
- 測定ルーチンの保存
- 測定ルーチンのアーカイブを使用した操作
- ファイル操作の実行
- Teamcenterへの接続
- 言語変更
- グラフィックの表示ウィンドウの印刷
- レポートウィンドウの印刷
- 測定ルーチンを閉じて終了する
- PC-DMISを閉じる

新しい測定ルーチンの作成

開こうとする既存の測定ルーチンがない場合は、**[新しい測定ルーチン]**ダイアログボックスを使用して新しい測定ルーチンを作成する必要があります。このダイアログボックスには**ファイル | 新規**メニューオプションを選択することによりアクセスできます。



新測定ルーチンダイアログボックス

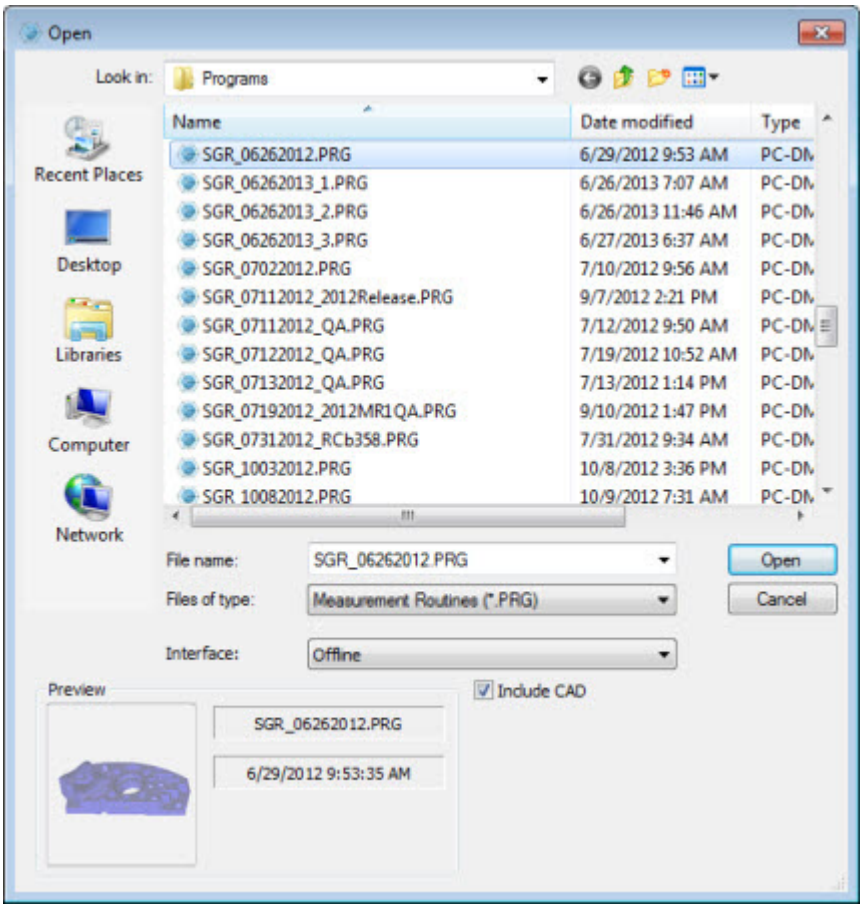
これで新しい測定ルーチンを作成できます。パーツ名、シリアル番号、改訂番号、インターフェース タイプ、および測定単位のタイプについて入力するよう、促されます。CMM インターフェイスのタイプもここで選択されます。**OK** をクリックすると、測定ルーチンが作成されますが、**[ファイル | 保存]** を選択して測定ルーチンに保存するまでメモリのみに格納されます。

注記: 新規測定ルーチンを作成するためにPC-DMISが要求することは、**パート名**ボックスが値を持つことだけです。**リビジョン番号**および**シリアル番号**ボックスに入力する情報は省略可能です。

既存の測定ルーチン

以前に測定ルーチンを作成している場合は**[ファイル | 開く]** メニュー項目を使用して開くことができます。これで**開く**ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを使用して目的の測定ルーチンを見つけて開くことができます。

重要:バージョン3.2以前のバージョンで作成された2015.0での測定ルーチンを開く場合、旧バージョンでは機能しません。旧バージョンの PC-DMISで測定ルーチンを使用する場合、必ずバックアップを作成してください。



「開く」ダイアログ ボックス

これは標準的な Windows の**開く**ダイアログ ボックスであり、以下の追加項目があります:

- インターフェイス
  リストにはシステムのオンライン測定機のほか、ドロップダウンリストに**[オフライン]**オプションが表示されます。PC-DMISをオンラインモードで実行している場合、この測定ルーチンで使用する測定機インターフェイス (複数の CMM がある場合)
  を選択したり、**オフライン**測定機オプションを選択してオフライン実行したりできます。

- ダイアログ ボックスの
  プレビュー領域には、グラフィックの表示ウィンドウ（ラベルなし）におけるパートの最後のビューに対するCAD画像が表示されます。パートにCADデータがない場合、画像は測定された形状を表示します。また、この領域には測定ルーチンの名前とその最終変更日が表示されます。

- CADモデルが開こうとする測定ルーチンの一部である場合、測定ルーチンを開いたときに**[CADを含める]**チェックボックスをクリックしてCADモデルを読み込みます。チェックボ

ックスを選択しない (をクリアしている)
場合、測定ルーチンが開くときにCADモデルは読み込まれません。

注記: PC-DMISを起動すると**開く**ダイアログ
ボックスが自動的に開き、既存の測定ルーチンを開くことができます。ただし、この機能を無効にしたい場合は、**セットアップオプション**ダイアログボックスの**一般**タブにある、**スタートアップダイアログの表示** チェックボックスをクリアします。

開いている場合、変換メッセージをプローブします：

以前のバージョンから測定ルーチンを開いている場合、測定ルーチンに最終形式に使用された任意のプローブファイルを変更したいのかを尋ねる警告メッセージを受信することがあります。

PC-
DMISの古いバージョンでプローブの使用を計画すると、プローブファイルを更新することができません。しかし、プローブファイルを最後形式に更新する前に、PC-
DMISのバージョンにプローブのいくつの新しい要素が利用できないのを注意してください。

測定ルーチンを開いているとき、このメッセージを受信し続ける場合は、**はい**をクリックした後でも、 **ファイル| 名前を付けて保存** 操作を実行して、PC-
DMISのバージョンで互換性があるように測定ルーチンを保存する必要があります。詳しくは「新名で保存」トピックを参照してください。

リリースバージョンでの開発またはカスタム測定ルーチンの使用

開発バージョンまたはカスタムバージョンのPC-
DMISで作成した測定ルーチンは、開発またはカスタムバージョンで**ファイル | 名前を付けて保存**操作を実行して測定ルーチンを以前の標準リリースバージョンで保存しない場合、標準リリースバージョンでは機能しません。これを行う方法については、この章の「名前を付けて保存」を参照してください。

一方、リリースバージョンで作成された測定ルーチンは、PC-
DMISが警告を表示するものの開発またはカスタムバージョンで使用することができます。

サブルーチン名

以前のバージョンで180文字を超える名前を付けられたサブルーチンを含む測定ルーチンを開くと、サブルーチンの名前は自動的に最初の180文字に短縮されます。

測定ルーチンの保存

**[ファイル |
保存]**オプションを選択すると、現在の測定ルーチンで行われた全ての作業が保存されます。ファイルを初めて保存する場合、**[名前を付けて保存]**ダイアログ ボックスが現れます。このダイアログ

ボックスにより、お手持ちの測定ルーチンの保存先を選択できます（より詳しい情報については、「名前を付けて保存」トピックを参照して下さい）。

（**[名前を付けて保存]**ダイアログ ボックスから）測定ルーチンを旧バージョンのPC-DMISとして保存した場合、PC-DMISは、以降この測定ルーチンを保存する際に、前回選択した旧バージョンで保存するか尋ねるメッセージを表示します。[はい]をクリックすると、

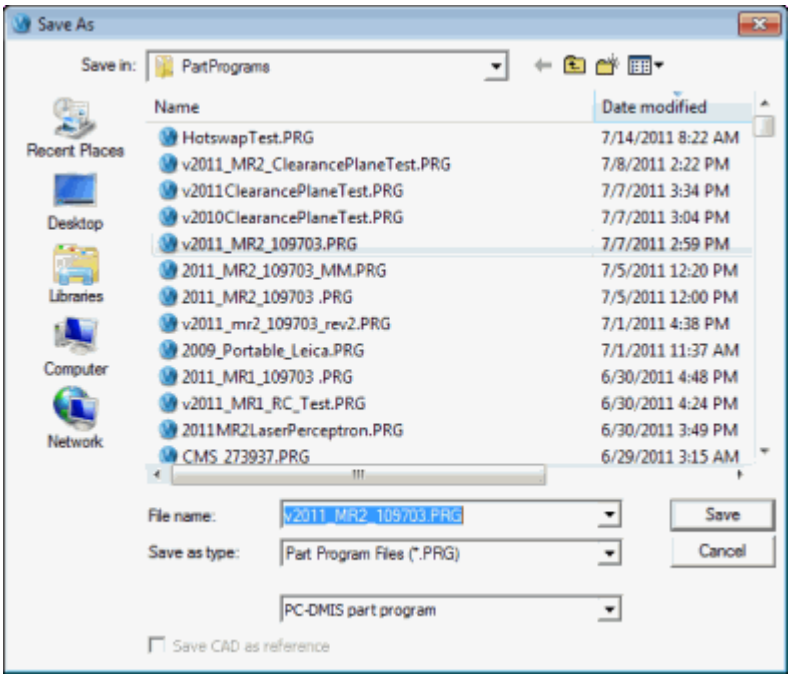
- **PC-DMIS**が測定ルーチンを古いバージョンに保存します。
- **いいえ**をクリックすると、PC-DMISは測定ルーチンを現在のバージョンに保存します。
- **キャンセル**をクリックすると、PC-DMISが保存せずに保存プロセスを終了します。

このメッセージの表示を止めたい場合、「優先設定」の章の「警告」を参照してください。

注記:
特定のイベントでは、測定ルーチンは自動的にアーカイブされます。詳細は「測定ルーチンのアーカイブを使用した操作」を参照してください。

新名で保存する

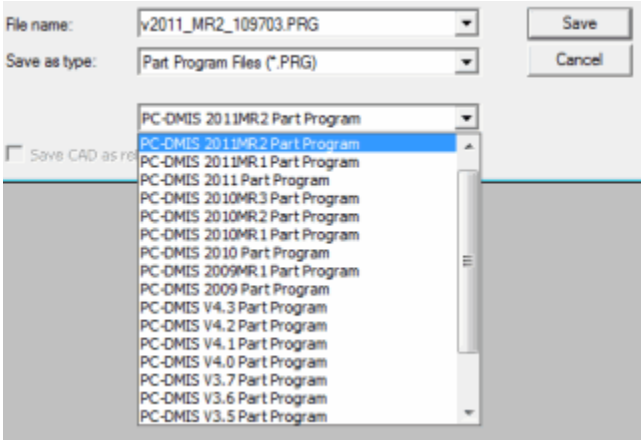
ファイル|名前を付けて保存オプションを選択するか、初めて測定ルーチンを保存すると、**名前を付けて保存**ダイアログ ボックスが表示されます。



セーブ ダイアログ ボックスを名前を付けて保存します

名前を付けて保存ダイアログボックスでは、新しいファイル名または以前のバージョンで現在の測定ルーチンを保存できます。

PC-DMIS 測定ルーチンリストを使用して、PC-DMISの最新バージョンおよび以前のバージョンで使用できる形式で測定ルーチンを保存することを選択できます。利用可能なフォーマットは、バージョン3.202以降のものです。



PC-DMIS 測定ルーチンリストでは利用可能なバージョン形式を表示しています。

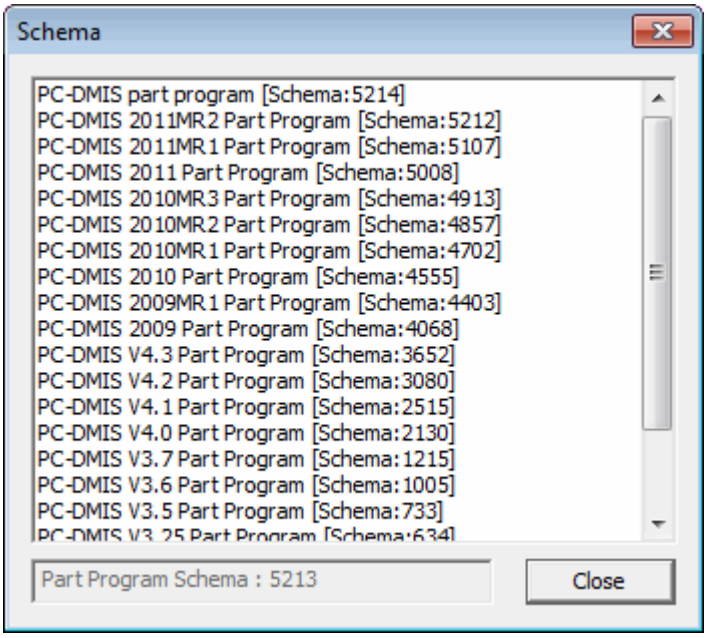
スキーマ番号および旧式のフォーマットへの保存について

PC-DMISの新バージョンはそれぞれ新機能を備えており、旧バージョンでは理解できない新しいコマンドを測定ルーチンに保存します。そのため、各測定ルーチンにはPC-DMISの特定バージョンに関連付けられた内部スキーマ番号が割り当てられています。デフォルトでは、**[ファイル | 保存]**を選択すると測定ルーチンは現在のバージョンのスキーマ番号に割り当てられます。この番号によって、そのバージョン(またはそれ以降のバージョン)のみがその測定ルーチンを開くことができるようになります。

例えば、バージョン 2011 で保存された測定ルーチンがある場合、スキーマ番号は 5008 になります。この測定ルーチンをバージョン 2010に読み込もうとすると、旧バージョンはPC-DMIS 2011で行われた変更を処理できないため、互換性を維持できません。もちろん、測定ルーチンをバージョン2010フォーマットに戻して保存することを選択することはできます。この場合、測定ルーチンの内部スキーマ番号は4555に下がり、バージョン2010でこの測定ルーチンを開くことができます。但し、新しいコマンドは使用できません。その代わり、PC-DMIS は未サポートコマンドをDOCUMENTコメントの内部に保存します。「編集ウィンドウの使用」の章の「ドキュメント」を参照してください。

重要:
カスタムレポート、テンプレート、ラベルテンプレート、およびその他のレポートの修正は元に戻すことができません。

利用可能な測定ルーチンのフォーマットのスキーマ番号を表示する必要がある場合、[**ヘルプ | バージョン情報**] を選択して [**スキーマ**] ボタンをクリックし、[**スキーマ**] ダイアログボックスにアクセスします。



様々な測定ルーチンのフォーマットに関連付けられたスキーマ番号を示すスキーマダイアログボックス

[**名前を付けて保存**] ダイアログ ボックスから [**保存**] ボタンをクリックして測定ルーチンを保存します。[**キャンセル**] ボタンを押すと保存せずにダイアログ ボックスを閉じます。

参照としてCADを保存 -
このチェックボックスで元のCADへの参照としてCADファイルを保存できます。このチェックボックスを使用して、新規ファイルをコピーするのではなくユーザーのCADモデルを参照できます。これはディスクスペースの節約に役立ちます。CADモデルを測定ルーチンに読込むときと**名前を付けて保存**ダイアログボックスにアクセスするときには常に、このオプションを選択できます。ソフトウェアが元の参照されたCADファイルを見つけることができない場合(CADファイルの名称変更、削除または保存場所の変更によって)、測定ルーチンを開こうとするとPC-DMISはユーザーに元のCADファイルを探すように指示します。

測定ルーチンのアーカイブを使用した操作

PC-DMIS は基本的な測定ルーチンのアーカイブ機能を備えています。これは、旧バージョンの PC-DMIS に存在していたファイルの自動保存機能にとって替わるものです。

以下のイベントでは2つの測定ルーチンのコピーがバックグラウンドで自動的に作成されます:

- <name>.prg~ は測定ルーチンを保存する直前に作成されます (ここで、<name> は測定ルーチンの名前です)。
- <name>.prg^ は測定ルーチンを読み込む直前に作成されます (ここで、<name> は測定ルーチンの名前です)。

> **注記:** 上記のバックアップ PRG~ および PRG^ ファイルには隠された属性セットがあり、「隠しファイルを表示」オプションを設定しない限り Windows Explorer に表示されません。

壊れた測定ルーチンを開こうとした場合、PC-DMIS は最後に (<name>.prg~) を保存する前に作成されたコピーを開くかどうか尋ねます。**はい**を選択すると、PC-DMIS は壊れた測定ルーチンの名前を <name>.prg.tmp に変え(デフォルトでは、これらのファイルは隠すように設定された隠し属性を持ち、「隠しファイルを表示する」オプションを適切に設定しない場合、Explorer ウィンドウには表示されません）、 <name>.prg~ を現在の測定ルーチンの名前に変えます。何らかの理由でそのバックアップも壊れている場合、PC-DMIS は最後のセッション中にユーザーが測定ルーチン(<name>.prg^) を読み込んだ直前に作成されたバックアップから復元するかどうかを問い合わせます。次に、同じ名前変更とコピーのプロセスを実行します。

> **警告:**
> 他のバックアップ/復元プロセスと同様、復元中に最新の変更が失われる可能性があります。

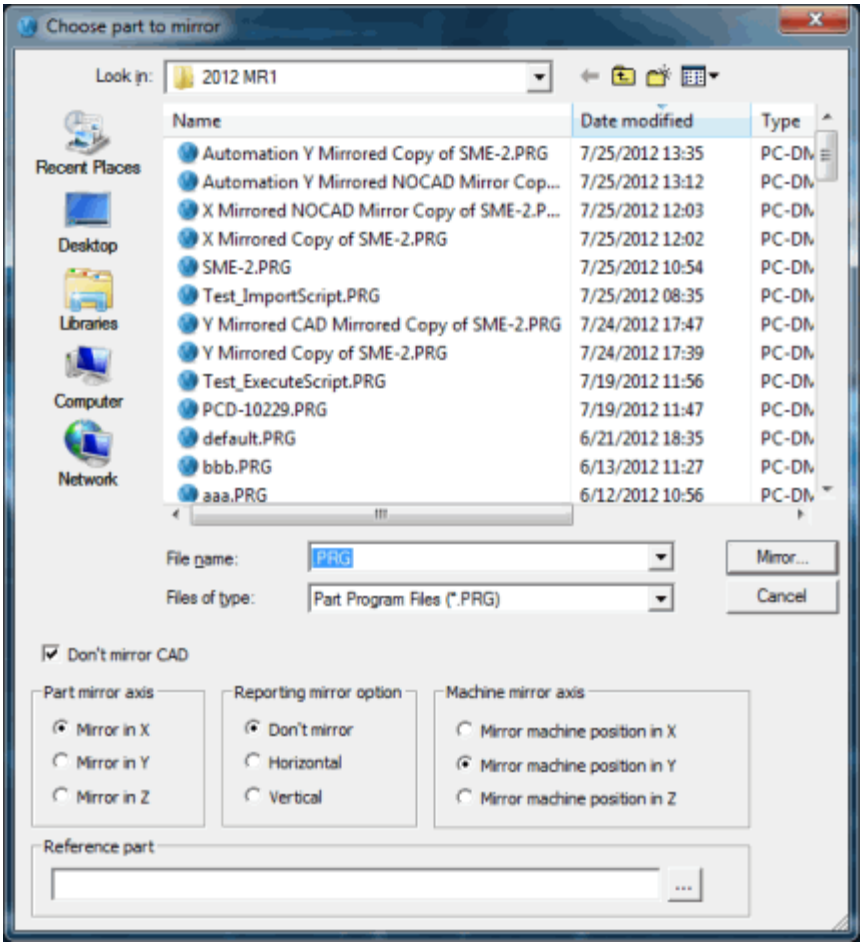
PC-DMIS 設定エディタの `DocumentRecovery` エントリを使用してこの機能を無効/有効にできます。

ファイル操作の実行

PC-
DMISのファイル操作で、測定ルーチンのファイルのミラー、コピー、削除、名前の変更ができます。

鏡面対称表示

ミラー コマンド(**ファイル| 操作| ミラー**) で、測定ルーチンのX、 Y、 または Z
軸にミラーの画像コピーの作成ができます。このコマンドを選択すると、**パーツを選択するミラー** ダイアログ ボックスが表示されます：



ミラーのダイアログ ボックスにパーツを選択します。

以下はダイアログボックスで選択可能な項目について説明します。

- **測定ルーチン** - 現在のディレクトリで使用可能なすべての測定ルーチンを表示します。
- **ファイル名** - ミラーリングする測定ルーチンを定義します。

- **ファイルの種類** - 現在のディレクトリ表示をフィルターし、測定ルーチンファイル (.PRG) のみを表示します。
- **CADをミラーしない** - 結果となる CAD がミラー変換されるかどうかを決定します。これがチェックされた場合、結果となる CAD はミラー変換されません。一番最初に PC-DMIS が起動されたとき、このチェックボックスはチェックされていません。その後、このステータスは最後のミラー変換が適用された状態となります。

  この値は、**オプション**セクションの設定エディタを使用して、**DoNotMirrorCAD**キーの値を変更することで変更可能です。

- **パーツのミラー軸** - 測定ルーチンをミラーする場合の軸を定義します。
  - **X軸ミラー** - パートをX軸ミラー変換します
  - **Y軸ミラー** - パートをY軸ミラー変換します
  - **Z軸ミラー** - パートをZ軸ミラー変換します
- **ミラーオプションをレポート** - PC-DMIS がレポートで CADイメージをミラー変換する方法を定義します。
  - **ミラーしません** - 全然ミラーしません。
  - **水平面** - 水平にCAD画像をミラーします。
  - **垂直** - 垂直にCAD画像をミラーします。

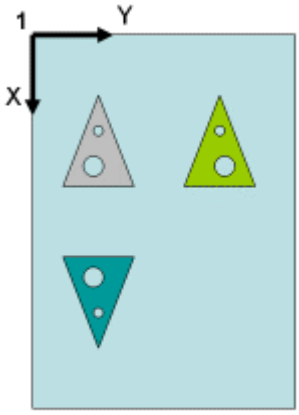
注記: CADReportObjects、CADImageObjects、分析オブジェクト、およびSectionCutObjectsといったレポートオブジェクトのほか、測定ルーチンで定義されたビューセットにも影響します。

- **機械のミラー変換軸** エリア
  - **機械の位置をX軸にミラー** - バーチャル機械 X軸をミラーします。
  - **機械の位置をY軸にミラー** - バーチャル機械 Y軸をミラーします。
  - **垂直** - 垂直にCAD画像をミラーします。

注記: バージョン4.3より前では、仮想測定機のパーツを表示する際に、PC-DMISはパーツの原点を中心にミラー変換し、ユーザーはクイック固定具のショートカットメニューを使用してミラー後のパーツの位置と方向を定義する必要がありました。バージョ

ン4.3以降では、PC-
DMISはオリジナルパーツと同じ位置でパーツをミラー変換するようになりました。**測定機のミラー軸**
エリアを使用して、仮想測定機にあるミラー後のパーツの方向を定義することが可能です。機械に測定される場所へパーツをシフトする必要があります。

これらのオプションがパーツを配置する方法については、以下の図を参照してください：



1 - 測定機の原点

- 変換元パーツ

- 仮想測定機のY軸でパーツをY軸ミラー変換

- 仮想測定機のX軸でパーツをY軸ミラー変換

- **参照パーツ**エリアでは、基準パーツからクイック固定具アラインメントデータを取り出し、その情報をミラー変換操作に使用します。

参照パートがこのエリアを使用することを定義すると、PC-DMIS は**機械のミラー変換軸**エリアを使用しません。代わりに、ミラー後のパーツの位置と方向が既存の（かつミラー変換後の）参照測定ルーチンよりロードされます。

このオプションは、複数の測定ルーチンが同一の物理パーツに属し、それらをミラー変換する場合に特に役に立ちます。この場合、最初にミラーされた測定ルーチンのミラーパーツの位置と方向を定義するだけで済みます。その後、最初にミラーされた測定ルーチンを参照パーツとして選択することで、他の測定ルーチンを簡単にミラー変換できます。

測定ルーチンをミラーするには：

1. 測定ルーチンに無限リストを使用する場合、最初に`AlternateTipMirror`登録エントリーをTRUEに設定します。このエントリーはPC-DMIS設定エディタの[**ユーザーオプション**]セクションにあります。このエントリーは、プローブヘッドがAB角度の複数の可能な組み合わせを提供してミラーされた先端ベクトルを生成する場合に、PC-DMISが適切なAB角度を選択するのに役立ちます。

2. [**ファイル | 操作 | ミラー**]オプションを選択して[**ミラー変換するパーツを選択**]ダイアログボックスを表示します。

3. ミラーする測定ルーチンを選択します。

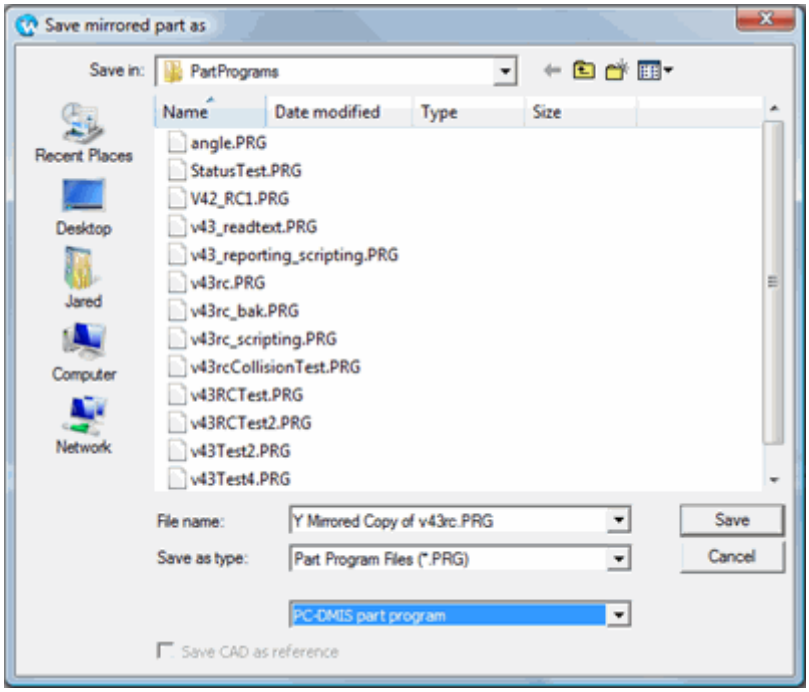
4. **パーツミラー軸** エリアから、ミラー軸を選択します。

5. **ミラー変換オプションの表示** エリアから、レポートにCAD画像をミラーしたい方法を選択します。

6. **[測定機のミラー軸]**エリアより、グラフィックの表示ウィンドウに表示される仮想測定機の上にミラーパーツをどのように位置付けるか定義します。

7. 参照パーツをすでにミラーしていた場合には、**参照パーツ** エリアで**ブラウズ**ボタンを使用します。これは参照パートからクイックフィクスチャアラインメント・データを取り出してミラーしている操作にその情報を使用します。

8. **[ミラー]**ボタンをクリックすると**[名前を付けてミラーパーツを保存]**ダイアログボックスが開き、ミラー変換用に選択した測定ルーチンのファイル名が表示されます:



～としてミラーされたパーツを保存ダイアログ ボックス

9. 測定ルーチンを保存したいディレクトリに移動して**[保存]**ボタンをクリックします。PC-DMISが測定ルーチンをミラー変換し、そのディレクトリに保存します。必要なファイルをコピーするのに多少時間がかかる場合があります。

重要: PC-DMIS
はプローブのAB先端角度のミラー変換も試みます。使用するプローブが正確にミラー変換され、定義、校正されたチップ角度を持たない場合、PC-
DMISは直近の校正済みチップ角度を選択します。校正済みのチップ角度が存在し、それが**セットアップオプション**ダイアログ
ボックスの**パーツ/測定機**タブにある**リスト警告デルタ**ボックスで指定した角度内にある場合、近くにある校正済みのチップ角度を選択します。近くに校正済みのABチップ角が存在しない場合、PC-
DMISは未校正のABチップ角を完全にミラーしたイメージを作成します。「優先設定」の章の「セットアップ オプション: パーツ/測定機 タブ」トピックを参照して下さい。

コピー

コピーコマンドでは、指定された測定ルーチンに関連するすべてのファイルをコピーすることができます。

測定ルーチンをコピーするには：

1. **ファイル| 操作| コピー** メニュー項目を選択します。**～からパーツファイルのコピー** ダイアログボックスが
   どのファイルにコピーしたいとどのファイルからコピーしたいを示す。
2. ディレクトリ構造をナビゲートして測定ルーチンを選択します。
3. **[開く]**ボタンをクリックして、**[パーツファイルのコピー先]**ダイアログを表示します。
4. コピーしたい測定ルーチンをクリックすると、
   [ファイル名]ボックスにそのファイル名と拡張子が表示されます。
5. 測定ルーチンをコピーしたいフォルダに移動します。
6. **開く** ボタンをクリックして下さい。

コピーされるファイルは .prg ファイル、.cad ファイル、および .001, .002, …, .999
の範囲で同じベース名および拡張子を持つファイルです。

削除する

削除コマンドでは、指定された測定ルーチンに関連するすべてのファイルを削除することができます。

測定ルーチンを削除するには：

1. **ファイル| 操作| 削除** メニュー項目を選択します。**パーツファイルの削除** ダイアログボックスが示します。
2. どの測定ルーチンを削除するかを選択します。
3. **開く** ボタンをクリックして下さい。PC-DMISは、このファイルをゴミ箱に送ってよいか尋ねるメッセージを表示します。
4. **はい** ボタンをクリックして下さい。

削除されるファイルは .prg ファイル、.cad ファイル、および .001, .002, …, .999
の範囲で同じベース名および拡張子を持つファイルです。削除されたファイルはゴミ箱へ移されます。

名前の変更

名前の変更
コマンドで、ユーザーは指定された測定ルーチンと関連するすべてのファイルの名前を変更することができます。

測定ルーチンの名前を変更するには：

1. **ファイル| 操作| 名前の変更** メニュー項目を選択します。**変更前のパーツファイル名**ダイアログ ボックスが開き、どのファイル名を変更したいか質問します。
2. 名前を変更する測定ルーチンを選択します。
3. **開く** ボタンをクリックして下さい。**変更後のパーツファイル名**ダイアログボックスが開き、ファイルの新しい名前を尋ねます。
4. **ファイル名**ボックスに、新しいファイルの名称をタイプ入力して下さい。
5. **開く** ボタンをクリックして下さい。 名称変更が即時に適用されます。

名称変更されるファイルは、.prg ファイル、.cad ファイル、および、同ベース名を持つ .001, .002, …, .999 の範囲内の拡張子を持つ全ファイルです。

Teamcenterへの接続

ファイル **|**
Teamcenterを使用してTeamcenterソフトウェアへの接続を有効または無効にすることができます。Teamcenterはジーメンスが開発したMMS
(メトロロジー管理システム)データベースパッケージです。

ファイル **|**
Teamcenterメニューが表示されるようにするには、Teamcenterオプションをユーザーのライセンスに追加する必要があります。

Teamcenterメニューは以下のオプションから成ります:

On -
Teamcenterとの接続を有効にします。これによって、ソフトウェアにおける通常の**名前を付けて保存**および
開くダイアログボックスがTeamcenterで動作するように変更されます。ソフトウェアがTeamcenterに接続できない場合、逆にデフォルトの**Off**になり、通常の**名前を付けて保存**および**開く**ダイアログボックスが使用されます。

Off -
Teamcenterとの接続を無効にします。この場合、通常の**名前を付けて保存**および**開く**ダイアログボックスが使用されます。

Teamcenterでの動作について詳しくは、「直接CADインタフェースおよび変換器」文書の「Team centerの使用」を参照してください。

言語変更

ファイル|言語を選択すると、製品で支援されている言語が表示されます。チェックマークは、現在の言語を示します。新しい言語に切り替えるには、**ファイル|言語**を選択して、目的の言語を選択します。PC-DMISは自動に測定ルーチンを保存し、PC-DMISを終了して、再起動します。再起動後、PC-DMISは新しく選択した言語で作動します。

言語ヘルプファイル

注記: PC-DMISは、メイン・インストレーションのプロセスに支援された言語用のユーザ・インターフェース資源をすべて自動的にインストールします。ただし、英語以外のヘルプファイルの内容を表示するには、個別にそれをインストールする必要があります。

言語ヘルプファイルは必要に応じて言語パックフォルダーに移動し、適切な言語の実行ファイルを実行することでインストール可能です。

言語ヘルプファイルをインストールするには：

1. ダウンロードしたメイン PC-DMIS インストーラの言語フォルダー (<Product_Installer_Folder>\lang) に移動します。
2. 目的の言語パック実行ファイルを実行して言語ヘルプファイルをインストールします。

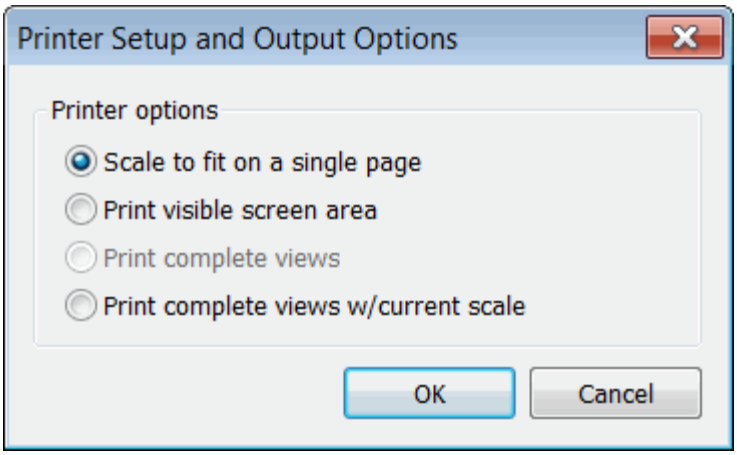
グラフィックの表示ウィンドウの印刷

PC-DMISはグラフィックの表示ウィンドウの現在の内容をプリンターに送信することができます。これを実行するには、**ファイル| 印刷|グラフィックウィンドウの印刷**メニューオプションを選択します。PC-DMIS は Windows の**印刷設定**ダイアログボックスを表示します。**OK**をクリックして、ダイアログボックスに表示されたプリンターにレポートを送信します。

印刷前に、出力オプションを設定し、印刷作業のプレビューをすることができます。

グラフィックの表示ウィンドウ用の出力設定とプリンタ オプション設定

[ファイル | 印刷 |
グラフィックウィンドウの印刷設定] メニューオプションを選択すると、**[プリンタ設定および出力オプション]**ダイアログ ボックスが表示されます。



プリンター設定と出力オプションダイアログ ボックス

ダイアログ
ボックスを使用してプリンターおよび様々な表示オプションを設定します。**[プリンターオプション]**エリアで使用可能なオプションでは、印刷されるグラフィック表示のタイプを選択できます。以下が含まれます。

１ページに合わせて表示 -
このオプションでは、任意のグラフィックイメージを1つのページに合わせて表示します。

画面に表示されている部分を印刷 -
このオプションでは、現在の画面に表示されているエリアのみを印刷します。要素をズームインした場合、パーツ全体ではなく画面に表示されている部分のみが印刷されます。

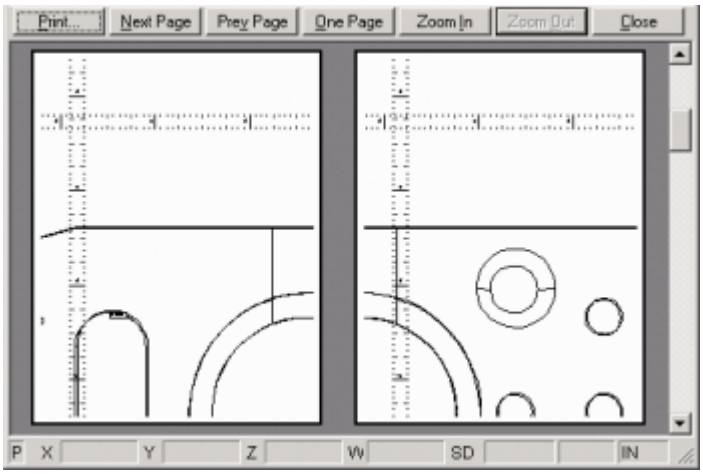
ビュー全体を印刷 - このオプションでは、**[ビューの設定]**ダイアログ
ボックスの**[レイアウト]**エリアで定義された各画像を、ページごとに印刷します。例えば、グラフィックス表示ウィンドウ上にZ+画像とY-画像が表示されている場合、PC-
DMISは、Z+画像を１ページに、そして、Y-
画像を他の１ページに、これらの画像をそれぞれ別々の２ページに印刷します。

ビュー全体を現在のスケールで印刷 -
このオプションは、画像が現在のスケールで印刷されることを除き、**[ビュー全体を印刷]**オプションと同様に機能します。画像にズームインしている場合、PC-
DMISは画像全体を印刷しますが、画像は複数ページに分割されます。

OKボタンをクリックして変更を保存します。

印刷作業のプレビュー

ファイル| 印刷 | グラフィックウィンドウの印刷プレビュー
メニュー・オプションを選択すると、簡単にグラフィックの表示ウィンドウから印刷される様子をプレビューできます。印刷プレビュー ウィンドウが現れます。



グラフィックの表示ウィンドウの内容を表示した印刷プレビュー ウィンドウ

ウィンドウ上部のボタンは以下の機能を行います：

印刷ボタンは、標準の**印刷セットアップ**ダイアログボックスを開き、印刷ジョブをプリンターに送ることができます。

次ページと**前ページ**ボタンを使うと、複数ページの印刷ジョブの各ページを順番に表示することができます。

１ページまたは**2ページ**トグル ボタンでは、プレビュー
ウィンドウ上に一度に表示するページ数を決定できます。

ズームインおよび**ズームアウト**ボタンでは、プレビュー
ウィンドウ上で一つのページを素早く表示させることができます。このズーム操作は、プリンタへ送られる印刷内容に影響しません。

閉じるボタンは、プレビュー ウィンドウを閉じます。

レポートウィンドウの印刷

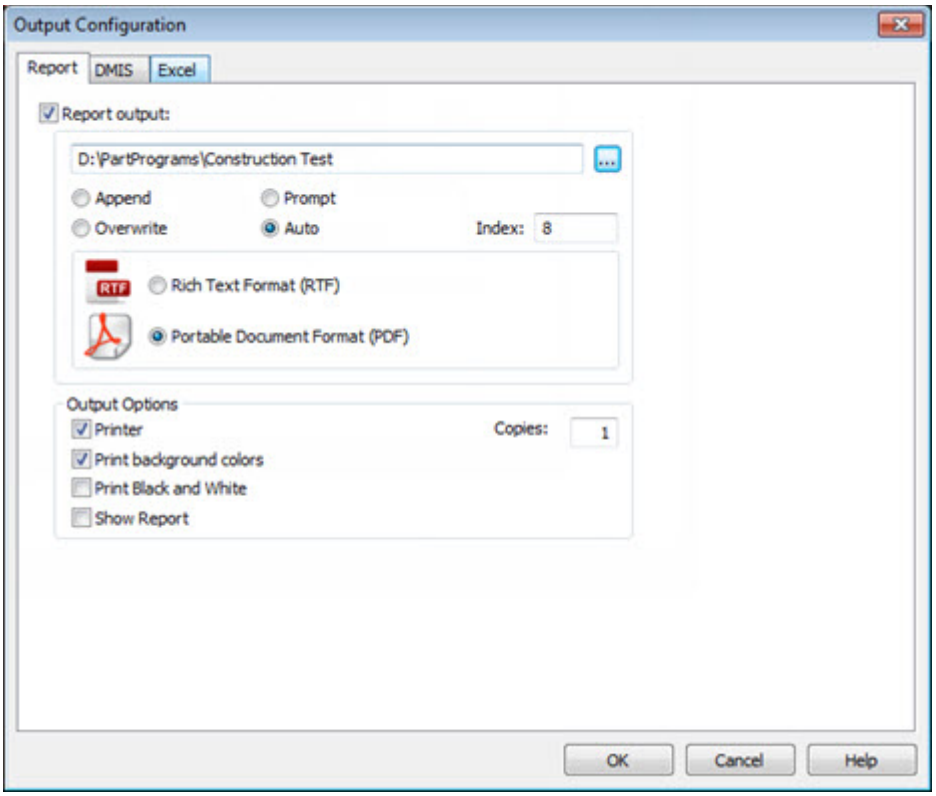
PC-
DMISはレポートウィンドウの検査レポートをさまざまな出力デバイスまたはファイルに送信します。PC-
DMISは多種多様なプリンタやプロッタをサポートします。ハードウェアの互換性に関する質問は、PC-DMISの販売代理店へお問い合わせください。

検査レポートを印刷するには、**ファイル| 印刷| レポートウィンドウの印刷設定**メニューオプションを選択します。印刷する前に、**[ファイル | 印刷 | レポートウィンドウ印刷設定]** を選択して印刷ジョブの出力オプションを設定できます。

重要: テキストのみのレポートを印刷している場合、True Typeフォント（Courier Newなど）を使用してください。それ以外の場合は文字や線が期待通りに並ばない可能性があります。テキストのみのレポートで使用するフォントを変更する必要がある場合、レポートテンプレートで使用するTextReportObjectの**フォント**プロパティを変更します。

レポートウィンドウの出力およびプリンタオプションの設定

ファイル | 印刷 | レポートウィンドウ印刷セットアップメニューオプションを選択すると**[出力設定]**ダイアログボックスが表示されます。



[出力設定]ダイアログボックス

このダイアログ ボックスを使用してPC-DMISに検査レポートを送信したい場所を伝えます。ダイアログボックスには以下のタブが含まれ、これらを使用して DMISファイル、Excel ファイル、または以下の組み合わせとしてファイル、プリンター、出力に宛ててレポートを送信することができます。

レポート - レポート出力をファイル(.rtf または .pdf)またはプリンタに送信します。このタブの使用については、「RTF、PDFまたはデフォルトプリンタへの出力」を参照してください。このタブでの式を使用したファイルへの出力については「式を使用したファイルへの出力」を参照してください。

DMIS - レポート出力をDMIS出力ファイル (.dmo) に送信します。このタブの使用に関する詳細は「DMISファイルに出力」を参照してください。

Excel - レポート出力を Excel ファイル (.xls、xlsx、または .csv) に送信します。このタブの使用に関する詳細は、「Excelファイルに出力」を参照してください。

保存された検査レポートの表示に関する詳細は、「その他のウィンドウ、エディタ、およびツールバーの使用」の章の「検査レポートの表示」トピックを参照してください。

マークされた設定に印刷オプションの設定

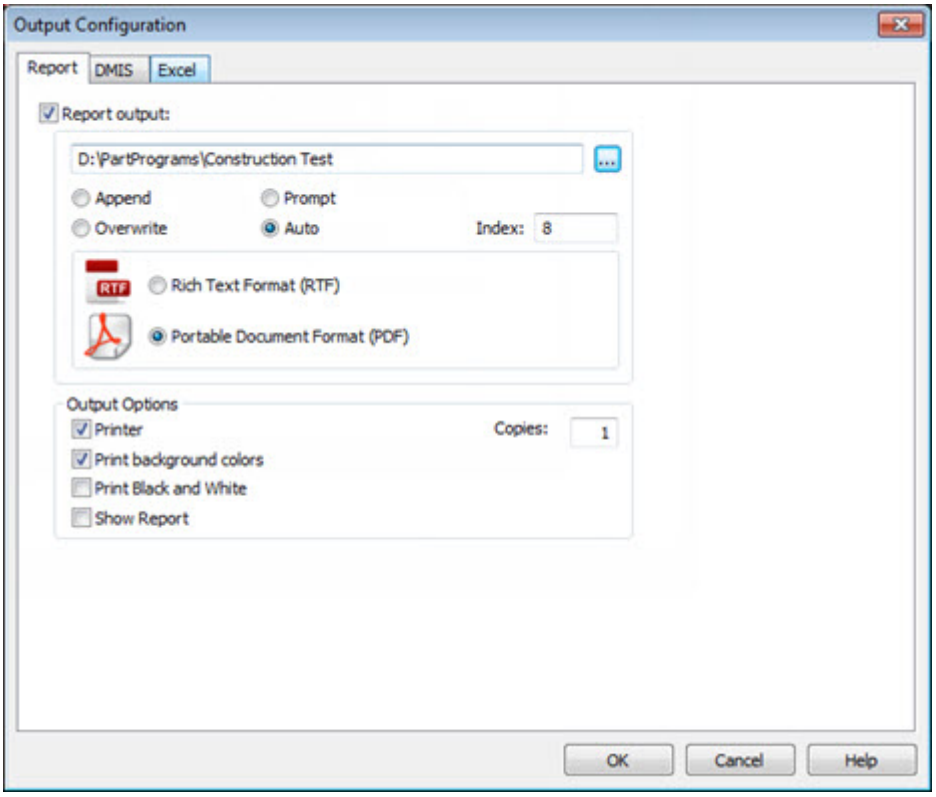
PC-DMISでは、「マークされたセット」が作成されるたびに**[出力設定]**ダイアログボックスのインスタンスが表示されます。*これは、新規に作成された「マークされたセット」のみに適用される印刷オプションを定義します。*代わりに、測定ルーチン全般に適用される既定の印刷設定を使用したい場合は、**[グローバル印刷設定の使用]**チェックボックスを選択することもできます。「マークされたセット」の使用に関する詳細は、「測定ルーチンの編集」の章にある「マーク済み要素セットの作成と実行」の項目を参照して下さい。

既存のマークされた設定の印刷オプションを定義するには、「マークされた設定」ウィンドウで設定を選択して**ファイル| 印刷| ウィンドウ印刷設定をレポート**を選択します。

画像の比の設定

`MaxImageRatio` レジストリエントリは、レポートウィンドウからCAD描画を印刷するときの画面解像度とプリンタ解像度の間の最大画像比を設定します。PC-DMIS設定エディタの**レポート**の項にある `MaxImageRatio`エントリを参照してください。

RTF、PDFまたはデフォルトのプリンタへの出力



[出力設定] ダイアログボックス - [レポート] タブ

[出力設定]ダイアログボックス (**ファイル | 印刷 | 印刷設定のレポートウィンドウ**)における**レポート**タブは、プリンタにレポート出力を送信するかどうか、個別の .rtf または .pdf ファイル形式あるいはその両形式でレポートを生成するかどうかを定義します。また、それは生成されたレポートにオプションを提供します。

レポート出力

レポート出力 - これをマークするとPC-DMISは出力をファイルに送信します。リッチテキスト形式（.rtf）またはPDF形式（.pdf）のいずれかで保存できます。最初に、測定ルーチンと同じ名前を持ち、拡張子の前に数字インデックスが付加されるようにファイル名が生成およびフォーマットされます。PC-DMISはこの初期ファイル名を生成しますが、この名前はデフォルト形式に従う必要はなく変更することができます。

追加 - PC-DMISは検査レポートから選択したファイルに現在のデータを追加します。完全パスを指定する*必要があり*、指定しない場合、PC-DMISは測定ルーチンと同じディレクトリと見なします。また、ファイルが存在しない場合はレポート生成時に作成されます。

追加を使用した RTF 制限: レポート作成のために RTF ドライバが PC-DMISのテンプレート・アプローチを用いて作業する方法が制限されているため、RTFファイルに*追加*する場合、PC-DMISは、現在のレポートテンプレートに存在する他のオブジェクトに関わらず、**TextReporting** オブジェクトのコンテンツのみを送信します。

さらに、RTF ファイルへ追加することを選択した場合、そのファイルは、*常に***追加**オプションとともに使用されたファイルでなければなりません。最初に**上書き**または**自動**で使用した RTF ファイルには追加できません。

上書き - PC-DMISは現在の検査レポートデータで選択されたファイルを上書きします。完全パスを指定する必要があります。指定しない場合、PC-DMISは測定ルーチンと同じディレクトリと見なします。また、ファイルが存在しない場合はレポート生成時に作成されます。

プロンプト - PC - DMISはユーザが報告のために目的地ファイルを選ぶことができる**改名保存**ダイアログ・ボックスを表示します。

自動 - PC-DMISは**インデックス**ボックスの番号を使用してレポートファイル名を自動で生成します。生成されたファイル名は測定ルーチン名に数字のインデックスと拡張子が付いたものになります。また、作成されたファイルは、測定ルーチンと同じディレクトリに置かれます。作成されたファイル名と同じ名称のファイルが既に存在する場合、**[自動]**オプションは一意のファイル名が見つかるまで、ファイル名のインデックスの値を増加します。

注記: 報告書印刷後に、PC-DMISは次の番号に**インデックス**の値を内部的に更新します。また、それは**印刷オプション**ダイアログ ボックスにおけるファイル名を変更して、新たに増加されたファイル名を示します。

リッチテキスト形式 (RTF) - PC-DMIS は Microsoftリッチテキスト形式 (.rtf ファイル)を使用してドキュメント交換のためのレポートを作成します。PC-DMISはデフォルトではAmyuni RTFコンバータを使用してRTFレポートを作成します。これには基本的に、RTFファイル内部の数個のテキストボックス内の情報が必要です。これはRTFレポート内部でレポートテンプレート要素を正確に配置するのに必要です。適切にレポートを表示するには、Microsoft Wordを使用して**印刷レイアウト**にドキュメントのビューを設定しなければなりません。この形式でレポートを編集するのが難しい場合は、旧型式のRTFレポートを作成することを考えたほうがよい場合があります。

*旧式 **RTF** レポートの作成*

PC-DMIS
はバージョン3.7以前のバージョンで使用されるレポートなど、旧式のRTFレポートを作成する方法を提供しています。これを行うには以下の手順に従います。

1. PC-DMISを閉じて下さい。
2. PC-DMIS設定エディタを起動し、**接続**をクリックします。
3. 設定エディタ内で、**ユーザー_印刷**セクションを拡大すると`DoNotUseAmyuniRTF` 設定が表示されます。
4. **現在 値**を**1**に設定して、**設定の保存**をクリックして、**OK**をクリックします。

> **注記: ファイル| 印刷| ウィンドウ印刷設定をレポート** メニュー
> オプションを使用して作成される時にのみこの設定は機能します。PRINT/REPORT コマンド(**挿入| レポートコマンド| 印刷コマンド**)を挿入した場合、
> RTF出力を作成するコマンドを希望して、この値を**2**に設定します。

5. PC-DMIS を再起動します。
6. レポートウィンドウがレポートをテキスト形式で印刷するよう設定されていることを確認します。これを行うには、レポートウィンドウの終わりに空白を右クリックして**テキストモードの測定結果レポートを使用**
   チェックボックスを選択します。詳しい情報については、「測定結果レポート」の章にある「レポートウィンドウの内容を変更」を参照して下さい。

*旧スタイルの **RTF** レポートのマージンおよびページサイズを変更*

`DoNotUseAmyUniRTF` が 1 または 2 に設定されている場合、PC-DMIS
設定エディタ の印刷セクション下にある以下のレジストリ エントリを変更することで RTF 出力に使用するデフォルトのマージンおよびページサイズを変更することができます。

`PcdmisRTFLeftMargin`

`PcdmisRTFRightMargin`

`PcdmisRTFTopMargin`

`PcdmisRTFBottomMargin`

`PcdmisRTFPaperHeight`

`PcdmisRTFPaperWidth`

RTF レポートの追加使用

RTFファイル形式の意味の原因で、
RTFファイルは主に以下のようにテキストベースのレポートを交換できるファイル形式として意図されています：

```
PART NAME   : Test Program
REV NUMBER : B5
SER NUMBER : 13579
STATS COUNT : 1

Active alignment changed to STARTUP

            START ANG=0,END ANG=0CYL1=CYLINDER MEASURED FROM 9 HITS
DIM LOC1= LOCATION OF CYLINDER CYL1  UNITS=MM
AX    NOMINAL       +TOL       -TOL        MEAS        DEV     OUTTOL
X      154.500      0.025      0.025     154.495     -0.005      0.000 ---#-----
Y       19.500      0.025      0.025      19.503      0.003      0.000 -----#---
Z      -35.000      0.025      0.025     -35.000      0.000      0.000 ----#----
```

default.rtp レポートテンプレートを使用してサンプルテキストベースのレポート

CADonly.rtp、TextOnly.rtp、その他同様のテンプレートに基づくファイルのようなグラフィカルな要素を含む RTF
ファイルは、作成するのに長い時間がかかり、ファイルが非常に大きくなる可能性があり、グラフィックは他のファイル形式と同じように良いとは限りません。
このような理由により、グラフィカルなレポートには RTF 形式ではなく PDF
形式を推奨します。

ポータブル文書フォーマット (PDF) - ポータブル文書フォーマット (PDF)
オプションを選択した場合、PC-DMISは*Adobe Portable Document Format (.pdf ファイル)*または電子ファイル共有を使用してレポートを作成します。 PDF
フォーマットでの測定結果は、デフォルトの青色の背景色を持たず測定結果のシンボルも表示しません。

> **注記:** コンピュータに既にインストールされていない場合、pdf
> ファイルをビューするためにツリーAdobe® Acrobat® Reader™
> をインストールする必要があります。以下のAdobeのウェブサイトからダウンロード可能です: http://www.adobe.com/products/acrobat/readstep.html

グローバル印刷設定の使用 -
このチェックボックスは、[マークされたセット]ウィンドウから最初にマークされたセットを選択

してこのダイアログ
ボックスにアクセスした場合に利用可能になります。**グローバル印刷設定の使用**チェックボックスは、マークされたセットのグローバル出力ファイルのパラメータをPC-DMISが使用するかどうかを決定します。このチェックボックスを選択すると、マークされたセットに使用する特定のデフォルト印刷オプションを上書きし、測定ルーチンのグローバル設定を使用して出力をより柔軟にコントロールすることが可能です。このチェック
ボックスを選ぶと、マークされたセットで使用するファイルへの印刷命名スキーマよりも自由なコントロールが可能です。

注記: REPORT/LEGACY コマンドでは**Hyper レポートインライン**
チェックボックスを使用できます。詳しくは、「測定結果のレポート」の章の測定ルーチンでのレポートまたはレポート テンプレートの埋め込みを参照してください。

出力のｵﾌﾟｼｮﾝ

プリンター - レポートをデフォルトのプリンターに送信するかどうかを決定します。

背景色を印刷 - レポートの背景色を印刷するかどうかを決定します。。

デフォルトでは、このチェック
ボックスは選択されており、背景色が印刷されます。このチェックボックスをクリアすると、背景色は印刷されません。既にレポートウィンドウにあるレポートから背景色をクリアまたは表示する場合、**レポート**ツール バーから**[レポートを再描画]**ボタンをクリックしてください。

このチェックボックスのデフォルト状態を変更するには、**編集**メニューをクリックし、**優先設定**に進み、**セットアップ**をクリックします。次に、**一般**タブで、チェックボックスのリストから**背景色の色を印刷**チェックボックスをマークするかクリアします。

pc-dmis	PART NAME : V41Test	March 15, 2006	12:22
	REV NUMBER :	SER NUMBER :	STATS COUNT : 1.0000

0.0000	MM	LOC1 - CIR1				
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL
X	154.5000	0.010	0.010	154.5000	0.000	0.000
Y	80.5000	0.010	0.010	80.5000	0.000	0.000
PD	15.0000	0.010	0.010	15.0000	0.000	0.000
0.0000	MM	LOC2 - CIR2				
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL
X	93.5000	0.010	0.010	93.5000	0.000	0.000
Y	80.5000	0.010	0.010	80.5000	0.000	0.000
PD	15.0000	0.010	0.010	15.0000	0.000	0.000
0.0000	MM	LOC3 - CIR3				
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL
X	93.5000	0.010	0.010	93.5000	0.000	0.000
Y	19.5000	0.010	0.010	19.5000	0.000	0.000
PD	15.0000	0.010	0.010	15.0000	0.000	0.000
0.0000	MM	LOC4 - CIR4				
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL
X	154.5000	0.010	0.010	154.5000	0.000	0.000
Y	19.5000	0.010	0.010	19.5000	0.000	0.000
PD	15.0000	0.010	0.010	15.0000	0.000	0.000

背景色付きのレポートの例

pc-dmis	PART NAME : V41Test	March 15, 2006	12:27
	REV NUMBER :	SER NUMBER :	STATS COUNT : 1.0000

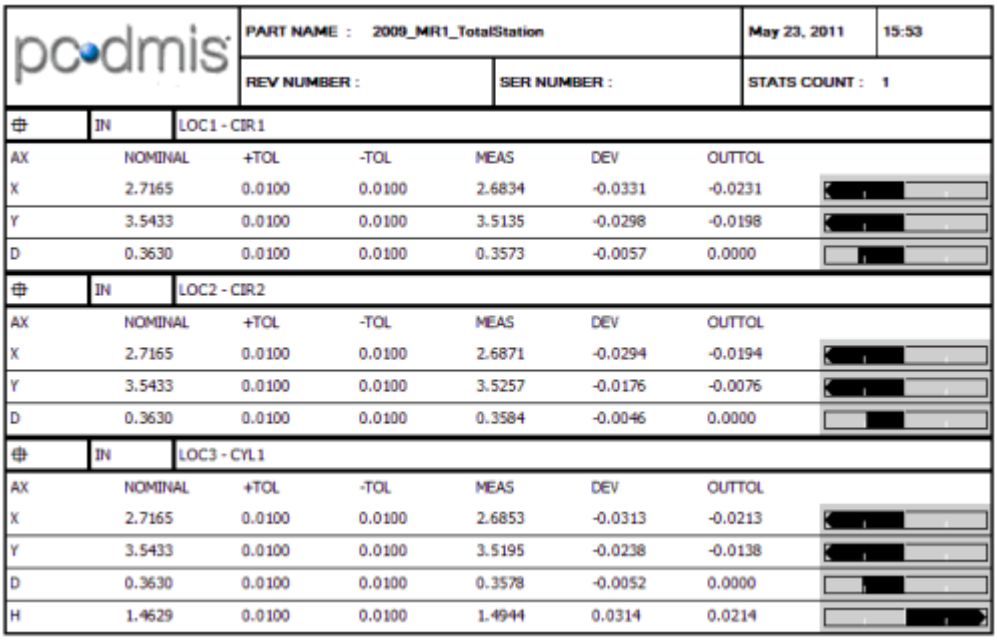
0.0000	MM	LOC1 - CIR1				
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL
X	154.5000	0.010	0.010	154.5000	0.000	0.000
Y	80.5000	0.010	0.010	80.5000	0.000	0.000
PD	15.0000	0.010	0.010	15.0000	0.000	0.000
0.0000	MM	LOC2 - CIR2				
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL
X	93.5000	0.010	0.010	93.5000	0.000	0.000
Y	80.5000	0.010	0.010	80.5000	0.000	0.000
PD	15.0000	0.010	0.010	15.0000	0.000	0.000
0.0000	MM	LOC3 - CIR3				
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL
X	93.5000	0.010	0.010	93.5000	0.000	0.000
Y	19.5000	0.010	0.010	19.5000	0.000	0.000
PD	15.0000	0.010	0.010	15.0000	0.000	0.000
0.0000	MM	LOC4 - CIR4				
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL
X	154.5000	0.010	0.010	154.5000	0.000	0.000
Y	19.5000	0.010	0.010	19.5000	0.000	0.000
PD	15.0000	0.010	0.010	15.0000	0.000	0.000

背景色なしのレポートの例

注記:
一部のケースで、ここで背景色の表示を閉じた後もレポートに背景色が表示され続ける場合があります。これは、一部のレポート
テンプレートオブジェクト内に存在する特殊な背景色があるためであり、このチェックボックスからはコントロールできません。デフォルトでは、PC-DMISレポート
テンプレート内に存在する**TextReportObject**および**レポート**
オブジェクトには、配色上ごく淡い緑色の背景色が付いています。**TextReportObject**にとって、これはテンプレート内のオブジェクトの境界を表示するのに役立ちます。この背景色が問題である場合、レポート
テンプレートから当該オブジェクトの**色**プロパティにアクセスし、背景色を白色に変更して下さい。「測定結果をレポート」の「レポートのテキスト色を変更」を参照してください。

[白黒で印刷] -
テキスト、線、および公差範囲のグラフを白黒または定義した色で印刷するかどうかを決定します。。

注記:
これは、すべてのレポートを完全に白黒印刷するわけではありません。このチェックボックスの影響を受けない要素もあります(例えばグラフィックの表示ウィンドウ、画像、一部の OCX
要素はこの影響を受けません)。



PART NAME : 2009_MR1_TotalStation			May 23, 2011	15:53
REV NUMBER :	SER NUMBER :		STATS COUNT : 1	

⊕	IN	LOC1 - CIR1					
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	
X	2.7165	0.0100	0.0100	2.6834	-0.0331	-0.0231	
Y	3.5433	0.0100	0.0100	3.5135	-0.0298	-0.0198	
D	0.3630	0.0100	0.0100	0.3573	-0.0057	0.0000	
⊕	IN	LOC2 - CIR2					
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	
X	2.7165	0.0100	0.0100	2.6871	-0.0294	-0.0194	
Y	3.5433	0.0100	0.0100	3.5257	-0.0176	-0.0076	
D	0.3630	0.0100	0.0100	0.3584	-0.0046	0.0000	
⊕	IN	LOC3 - CYL1					
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	
X	2.7165	0.0100	0.0100	2.6853	-0.0313	-0.0213	
Y	3.5433	0.0100	0.0100	3.5195	-0.0238	-0.0138	
D	0.3630	0.0100	0.0100	0.3578	-0.0052	0.0000	
H	1.4629	0.0100	0.0100	1.4944	0.0314	0.0214	

白黒印刷されたレポートの例

pc-dmis	PART NAME : 2009_MR1_TotalStation		May 23, 2011	15:50
	REV NUMBER :	SER NUMBER :	STATS COUNT : 1	

⊕	IN	LOC1 - CIR1					
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	
X	2.7165	0.0100	0.0100	2.6834	-0.0331	-0.0231	
Y	3.5433	0.0100	0.0100	3.5135	-0.0298	-0.0198	
D	0.3630	0.0100	0.0100	0.3573	-0.0057	0.0000	
⊕	IN	LOC2 - CIR2					
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	
X	2.7165	0.0100	0.0100	2.6871	-0.0294	-0.0194	
Y	3.5433	0.0100	0.0100	3.5257	-0.0176	-0.0076	
D	0.3630	0.0100	0.0100	0.3584	-0.0046	0.0000	
⊕	IN	LOC3 - CYL1					
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	
X	2.7165	0.0100	0.0100	2.6853	-0.0313	-0.0213	
Y	3.5433	0.0100	0.0100	3.5195	-0.0238	-0.0138	
D	0.3630	0.0100	0.0100	0.3578	-0.0052	0.0000	
H	1.4629	0.0100	0.0100	1.4944	0.0314	0.0214	

カラー印刷されたレポートの例

レポートを表示 - .pdf または .rtf
ファイルに送信されたレポートを開くかどうかを決定します。このオプションにマークを付けると、レポートが作成された後に.rtf または .pdf
ファイルと関連付けたすべてのアプリケーションでレポートが開きます。

コピー -
プリンターに送信するコピーの数を決定します。これは**プリンター**オプションにマークを付けている場合にのみ有効です。

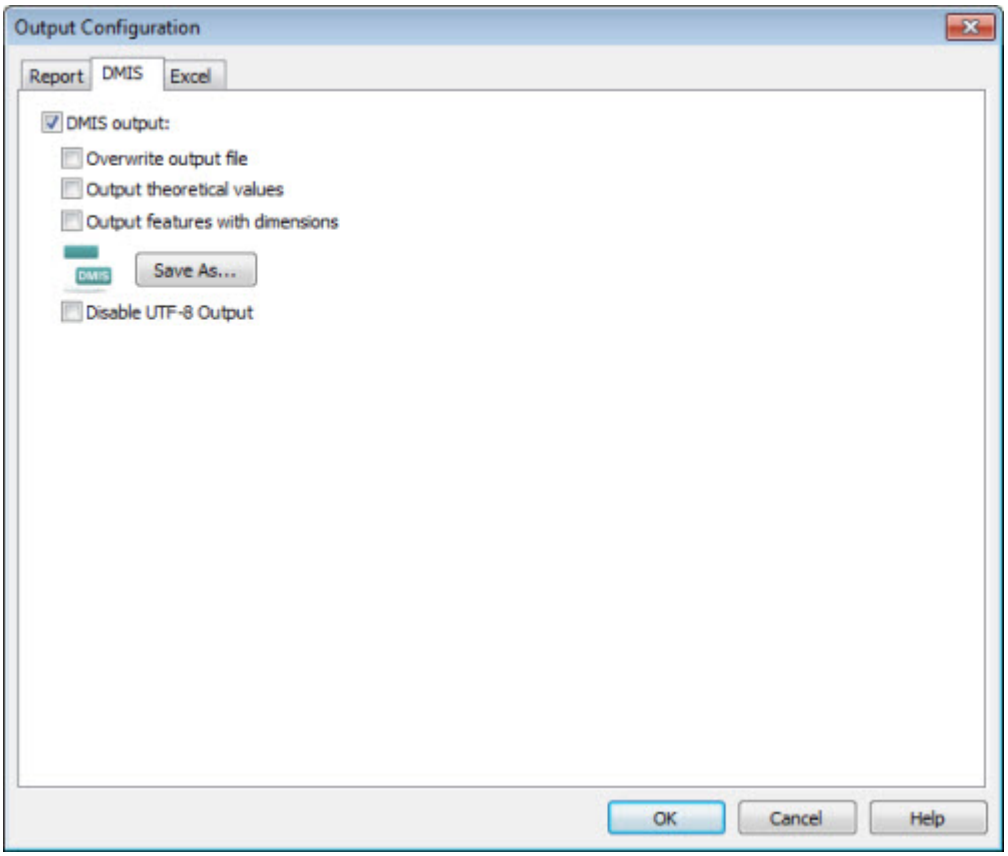
印刷解像度の変更による、ファイル サイズ コントロール

お客様のレポートにパーツモデルの画像が含まれる場合、PC-DMISは、デフォルトにより、お手持ちのプリンターのより高度の解像度能力を用いて、これらのモデル画像を印刷します。このことは、パーツモデルを表示するレポートがファイルに送られたとき、そのファイルサイズが予想以上に大きい可能性があることを意味しています。

PC-DMIS設定エディタのユーザー_印刷セクションの`MaxPrintResoution`エントリの値を変更することで、**解像度をコントロールでき、レポートのファイルサイズ**もコンロトールできます。レジストリ エントリの変更方法に関する詳細は「レジストリ エントリの変更」を参照して下さい。

`MaxPrintResolution`は、印刷装置がCAD画像の印刷時に生成する1インチ当たりのドット数（dpi）を定義します。必要に合わせてこの値を変更して、ファイルサイズと画質の間の適切なバランスを定義することができます。デフォルト値は1,000,000 dpi
であり、任意プリンタの最高印刷解像度性能を効果的に活用できます。プリンタの最高印刷解像度より低い値を定義すると、ファイルサイズが小さくなります。例えば、プリンタが最大500 dpiを印刷できるが、エントリーを70
dpiなどの小さな値に変更するとファイルサイズが小さくなります。

DMIS ファイルに出力



[出力設定]ダイアログボックス - DMIS タブ

[出力設定] ダイアログボックス (**ファイル | 印刷 | レポートウィンドウ印刷設定**)
で、**DMIS**タブから**DMIS出力**にマークを付けて測定ルーチンを実行すると、PC-DMIS
は検査レポート情報をDMIS出力ファイルとして測定ルーチンと同じベースファイル名に.dmoというファイル拡張子の付いた名前で保存します。このファイルは測定ルーチンがあるのと同じディレクトリに保存されます。

4つのチェックボックス(**出力ファイルを上書き**、**理論値を出力**、**測定結果と共に幾何学要素を出力**、および **UTF-8 出力を無効化**)

ならびに**名前を付けて保存**ボタンが利用可能になります。デフォルトでは、測定ルーチンを実行する度に、PC-DMISはファイル名に付いている番号を増加して出力ファイルを自動生成します。

出力ファイルの上書き

- **出力ファイルを上書き** - これをマークすると、PC-DMIS
  は旧出力ファイルを新しいもので上書きします。このチェックボックスを選択しないと、PC-DMISは以前のファイルを上書きせずに、**名前を付けて保存**ダイアログ
  ボックスで指定されたファイル名の数字を自動的に増やします。

  例えば、以前に出力ファイルとして「test.dmo」を選択し、**出力ファイルを上書き**が選択されていなかった場合、次回に測定ルーチンが実行されるとき、PC-
  DMISは新しいファイルを「test1.dmo」として保存します。測定ルーチンを新たに実行すると、この方法で保存されるファイル名の番号がインクリメントされます。

- **出力ファイルを上書き**チェックボックスを三番目の状態（ライトグレーのチェックマーク）に置くと、PC-DMIS
  は追加モードで指定されたファイルを開きます。これは、同ファイルへの出力を可能、不可能、再可能とするDMISの規則に沿っています。PC-
  DMISでは、**出力ファイルを上書き**がチェックされている状態でファイルが開かれた場合にのみ、この機能が正常に作動します。

理論値を出力する

- **理論値を出力** ― これを選択すると、PC-
  DMISは、測定値と共にすべての理論値を出力DMISファイルに出力します。*このチェックボックスを選択しない場合*、理論値はレポートに含まれません。

- **理論値の出力**
  チェックボックスをその三番目の状態（ライトグレーのチェックマーク）に置くと、オリジナルDMISルーチンで明示的に出力されたこれらの理論値のみがレポートに出力されます。測定ルーチンがDMISインポートプロセスで作成されている場合、三番目の状態は有用で、同じDMISの出力形式を維持する必要があります。

測定寸法と共にフィーチャーを出力する

- **測定結果と共に幾何学要素を出力** - これを選択すると、PC-DMIS
  は測定された要素とそれに関連した公差を出力ファイル内に保持します。PC-
  DMISは、要素自体に関連付けられているそれぞれの測定結果に対する関連公差の直前に測定の結果を書き込みます。

  要素が任意の公差と関連付けられていない場合には、PC-
  DMISは何の出力は作成しません。

- 選択しない場合、要素が測定され、PC-DMIS
  が関連する測定結果を実行したすぐ後に測定結果が正確に書き込まれます。

新名で保存する

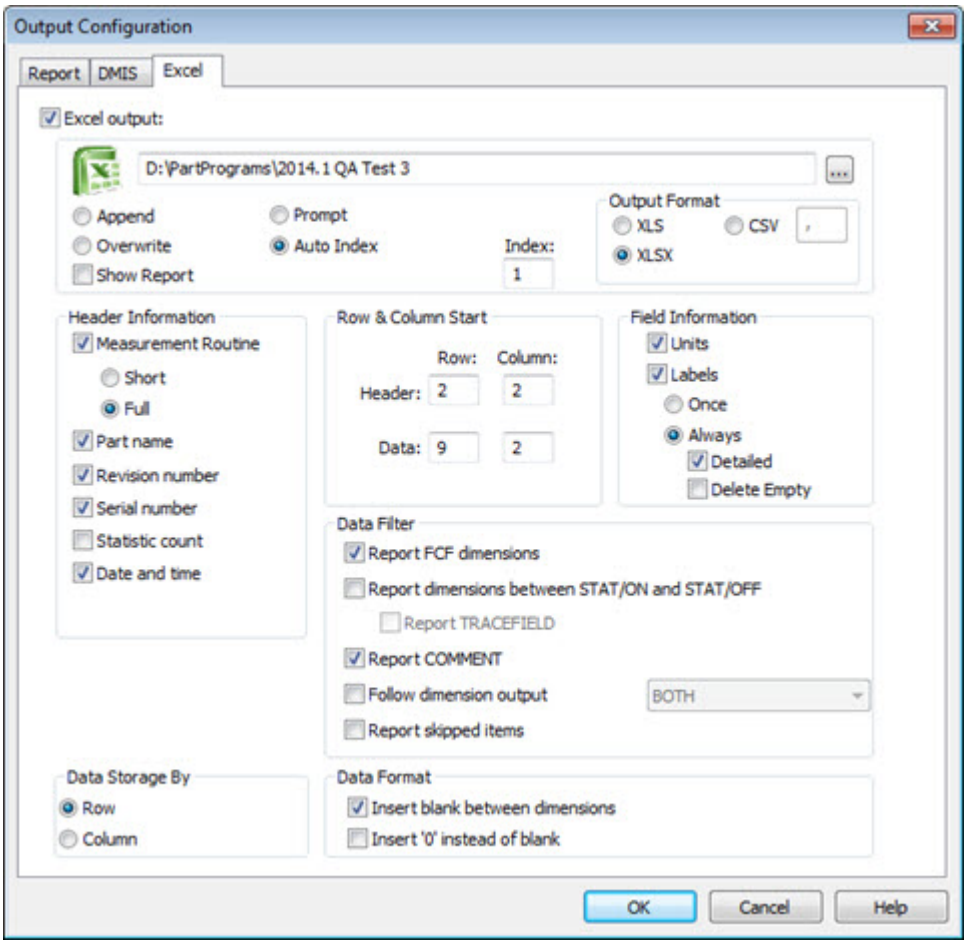
- **名前を付けて保存 - 名前を付けて保存**
  ダイアログボックスを開きます。DMISの出力形式(.dmo)でファイルと選択したディレクトリに検査レポートを保存します。**名前を付けて保存** ダイアログボックスから **保存**
  をクリックすると、PC-
  DMISはこのファイルを保存せずに、ユーザーが次回測定ルーチンを実行するときに指定された名前の付いた出力ファイルを作成します。

UTF-8 出力を無効にする

- これをマークすると、UTF-8
  を有効にした出力が英語および西ヨーロッパ言語にとって不正な文字になってしまう可能性があるため、UTF-8 文字エンコードを無効にすることができます。UTF-8
  とは、中国語や日本語など、一部の言語に含まれるマルチバイト文字のサポートのために広く使用される文字エンコードです。元来、DMIS は ANSI
  文字で構築されています。後に、オペレータのプロンプトなどがマルチバイトの言語で表示されるよう、UTF-8 サポートが追加されました。

注記:
ファイル名の数値部分は10以上の数字を超えてはならりません。それ以外の場合は、古い出力ファイルを上書きする危険性を実行します。

Excelファイルに出力



[出力設定]ダイアログボックス - Excel タブ

Excel 出力はレポートウィンドウのモードに従います。

- [レポートウィンドウ]ツールバーから **[レポートウィンドウを表示]** を選択すると、初めから終わりまでのレポート出力が生成されます。
- レポートウィンドウツールバーから**最後に実行されたレポートモードを表示**を選択すると、以下の実行リストに従ってレポートが生成されます。

詳細は「レポートツールバー」を参照してください。

レポートを Excel フォーマットで出力するには：

出力設定 ダイアログボックス (**ファイル | 印刷 | レポートウィンドウ印刷セットアップ**) の **Excel** タブをクリックします。

Excel 出力 チェックボックスをマークしてタブオプションを有効にします。

必要に応じてダイアログボックスで選択を行い、**OK**をクリックします。

PC-DMIS は検査レポートの情報を、「出力形式」セクションで選択し、作成された Excel ファイル形式で保存します。デフォルトは 同じベースのファイル名に . xlsx ファイル拡張子を付けた測定ルーチンです。既定の位置はあなたの測定ルーチンと同じディレクトリーにあります。利用可能な Excel ファイル形式は以下のとおりです：

- 最新の Excel .xlsx フォーマット
- 旧 Excel .xls フォーマット
- カンマ区切り値 .csv フォーマット

Excel オプションの設定

Excel 出力 チェックボックスを選択すると、以下のオプションが有効になります。

Excel 出力 ファイル位置フィールド -
レポートが保存されるファイル名とパスが表示されます。ファイル名はデフォルトの測定ルーチンの名前になります。新しいファイル名とパスを入力するか、「**...** 」ブラウズボタンをクリックして既存のファイル名とパスを探し選択します。

追加 -
ファイル名がターゲットの位置に既に存在している場合、現在のレポート情報は既存ファイルの最後に自動的に追加されます。

上書き -
ファイル名がターゲットの位置に既に存在している場合、既存ファイルは自動的に現在のレポート情報で上書きされます。

プロンプト -
ファイル名がターゲットの位置に既に存在している場合、既存ファイルを現在のレポート情報で上書きするかファイル名を更新するか尋ねられます。

自動 -
インデックスフィールドと併せて使用され、ファイル名にインデックス値分増やした数値を付加することでファイル名を更新します。例えば、ダイアログの**出力フォーマット**セクションで**XLS**を選択すると、最初のファイル名は"FileName001.xls"となります。以降、ファイル名は"FileName002.xls"、"FileName003.xls"、、、となります。

インデックス -
出力ファイルに自動的に名前を付けるために**[自動]**オプションが使用された場合、増分値を表す表示専用フィールドです (上記の **[自動]** オプションを参照してください。)

レポートの表示 -
生成されるとレビューのためにエクセル形式のレポートが自動的に開きます。

出力フォーマット - 出力タイプを定義します。以下のオプションが含まれます。

XLS - 出力を旧Excelフォーマットのファイルに送信します。

XLSX - 出力を最新のExcelフォーマットのファイルに送信します。

CSV - 出力をプレーンテキストのカンマ区切り値 (CSV)
ファイルに送信します。**[区切り文字]** では別の区切り文字を選択することもできます。

セパレータ (区切り文字)フィールド - CSV オプションを選択すると有効になり、CSV
ファイルにエクスポートするときに使用するセパレータ、つまり区切り文字を決定します。
デフォルトはカンマ文字**(,)**です。

ヘッダー情報 -
測定ルーチンのヘッダーデータを出力ファイルに書き込む方法について決定します。

測定ルーチン - これをマークすると、測定ルーチン名が出力ファイルに含まれます。

短縮 -
ファイル名が短縮された形式となり、完全なパスではなくファイル名のみが表示されます。

完全 - ファイル名は完全パスを含めて表示されます。

パーツ名 - これをマークすると、パーツ名が出力ファイルに含まれます。

改訂番号 - これをマークすると、改訂番号が出力ファイルに含まれます。

シリアル番号 - これをマークすると、シリアル番号が出力ファイルに含まれます。

統計カウント -
これをマークすると、トランザクションまたは実行の数が出力ファイルに含まれます。

日時 - これをマークすると、現在の日時が出力ファイルに含まれます。

行列の開始 - 測定結果データが出力ファイルに表示される方法を決定します。

ヘッダー行および列 -
ヘッダー情報を表示する開始位置を定義します。2および2の値は下に向かって2行目、右に向かって2列目から開始することを意味します。

データ行および列 -
測定結果データ情報の表示が開始する位置を定義します。9および2の値は9行目、および2列目から開始することを意味します。

フィールド情報 - フィールド情報を保存する際のフォーマットを決定します。

単位 -
これをマークすると各測定結果で使用される測定単位がエクスポートに含まれます。例えば、角度の測定値は 度として DEG を示し、サイズの測定値はミリメートルとして MM を、インチとして IN を示します。

ラベル -
出力ファイルでデータフィールドの隣にラベルがどのように表示されるかを決定します。これを選択すると、下記オプションが有効になります：

一度 -
ヘッダー情報の後、すべての測定結果がリストに表示される前にフィールドラベルが一度だけ現れます。

常時 - フィールドラベルは各測定結果の前で現れます。

詳細 -
[常時]をマークすると、このチェックボックスが選択可能になります。レポートにすべてのフィールドラベルを表示したい場合はこのチェックボックスを選択します。

このチェックボックスがマークされると表示されるラベルは以下の通りです：測定結果、説明、要素、軸、セグメント、公称値、測定値、プラス公差、マイナス公差、ボーナス、偏差、公差範囲外、偏差角度、基準要素のシフト効果、未使用の領域、シフト X、シフト Y、シフト Z、回転 X、回転 Y、および回転 Z。

これをクリアすると、測定結果、説明、軸、公称値、測定値、プラス公差、マイナス公差、偏差、および公差範囲外のラベルのみが現れます。

空の削除 -
これをマークすると、任意の空フィールドがレポートから削除されます。

データ保存方法 - 行ごと、列ごとなど、レポートを表示する方法を決定します。

行 - 測定結果が横に並べられます

列 - 測定結果が縦に並べられます

データフィルタ - データが出力レポートでフィルターされる方法を決定します。

FCF寸法のレポート - これをマークすると、PC-DMIS
は「要素コントロールフレーム」コマンドを Excel
ファイルに渡します。「要素コントロールフレームの使用」の章を参照してください。

STATS/ON と STATS/OFF 間の測定結果のレポート -
これをマークすると、測定ルーチンで STATS/ON および STATS/OFF
コマンドの間に測定結果(または要素コントロールフレームの測定結果)コマンドを含める*必要があり*、そうでない場合、ウィザードはデータを Excel
ファイルにエクスポートしません。このチェックボックスをクリアすると、すべての測定結果コマンドが Excel
ファイルにエクスポートされます。「統計データの追跡」の章を参照してください。これをマークすると、下記のオプションが有効になります：

TRACEFIELDのレポート - これをマークすると、TRACEFIELD
コマンドがSTATS/ONおよび STATS/OFFコマンド内部にある場合、 TRACEFIELD は
Excel レポート内のTRACEFIELD
コマンドからのデータを含みます。詳しくは、「フローコントロールを使用した分枝」の章を参照して下さい。

測定結果出力に従う - これをマークすると、PC-
DMISはデータをフィルタして、ユーザーがこのリストから選択するものすべてに適合するように設定された出力を持つ測定結果のみがExcelレポートに含まれるようにします：

- ﾚﾎﾟｰﾄ
- 統計ﾃﾞｰﾀ
- 両方

例えば、ユーザーが**レポート**を選択し、位置の測定結果を OUTPUT=STATS
に設定すると、位置の測定結果は Excel レポートに含まれません。

測定結果の出力について詳しくは、以下のトピックを参照してください：

- 従来の測定結果については、「従来の測定結果の使用」の章の「出力先」を参照してください。
- FCFの測定結果については、要素コントロールフレーム」の章の「GD&Tダイアログボックス - 詳細タブ」トピックに記載された**Output** エリアを参照してください。

スキップされた項目をレポート - このチェックボックスがマークされると、 PC-
DMISは、オペレータが実行時にスキップしたアイテムをを処理して、それらをレポートに含みます。このチェックボックスをオフにすると、 PC-
DMISはスキップした項目を無視します。オペレーターが手動でそれらをスキップするか、

または「ON ERROR」条件がそれらをスキップするようにPC-DMISに命じる場合、コマンドがスキップされることに注意してください。**スキップ**の詳細については、「実行ダイアログボックスの使用」を参照してください。「ON ERROR」分岐の情報については、「エラー状態の分岐」を参照してください。

データ形式 - 出力レポートのデータを表示する方法を決定します。

測定結果の間に空白を挿入 - これをマークすると、各測定結果の後に空白の行/列が挿入されます。

空白の代わりに '0' を挿入 - このチェックボックスをマークすると、空白データの代わりに '0' (ゼロ) が挿入されます。

式を用いてファイルに出力

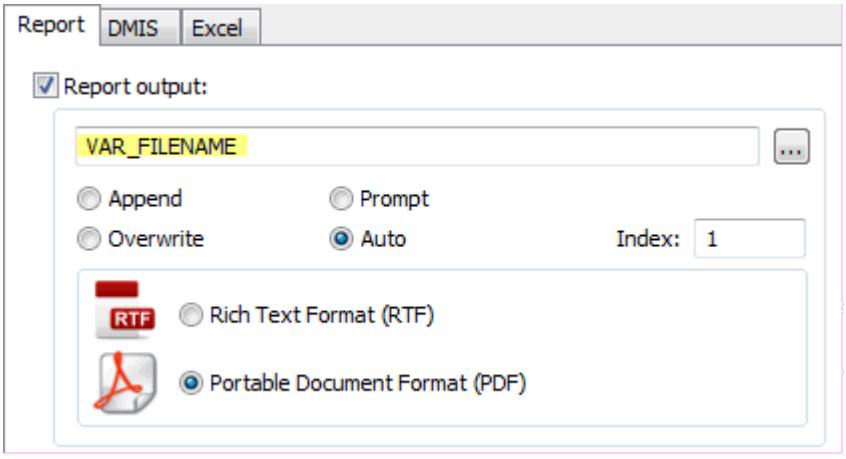
[出力設定] ダイアログボックス (**ファイル | 印刷 | ウィンドウ印刷設定のレポート**) の **[レポート]** タブから、**[ファイル]** ボックスで式を使用できます。この機能を用いると、**出力設定**ダイアログボックスで測定ルーチンのコードを使用して出力ファイルの保存先ディレクトリを動的に変更できます。

例えば、2人のユーザーJohn と Amy が同じ測定ルーチンの検査レポートをユーザー名に基づいた既存サブディレクトリに送信するとします。各ユーザーに対する**印刷オプション** ダイアログボックスを開き、保存先ディレクトリとレポート名を変更するのではなく、以下のようにユーザーに自分の名前をコメントに入力してもらい、割り当てコマンドとフロー制御コマンドを使用して、異なる保存先ディレクトリとレポート名を変数に保存することができます:

```
C1 =COMMENT/INPUT,YES,氏名を入力してください:

IF/C1.INPUT == "John"

ASSIGN/VAR_FILENAME = "C:\\inspectionreports\\John\\John.rtf "

COMMENT/OPER,NO,VAR_FILENAME

END_IF/

ELSE_IF/C1.INPUT == "Amy"

ASSIGN/VAR_FILENAME = "C:\\inpectionreports\\Amy\\Amy.rtf"

COMMENT/OPER,NO,VAR_FILENAME

END_ELSEIF/

ELSE/
```

```
ASSIGN/VAR_FILENAME = "C:\\inspectionreports\\" + C1.INPUT + ".rtf"

COMMENT/OPER,NO,VAR_FILENAME

END_ELSE/
```

次に、**[ファイル]**ボックスで、**[出力設定]**ダイアログボックスの**[レポート]**タブで、以下のように`VAR_FILENAME`変数を入力できます。



VAR_FILENAME in File box

その後、測定ルーチンを実行するときに、 ユーザーがJohnである場合、*John.rtf* レポートがJohnのディレクトリに保存されます。ユーザーがAmyである場合、*Amy.rtf*がAmyのディレクトリに保存されます。他の人の名前を入力すると、それががデフォルトの*C:\Inspectionreports* ディレクトリに保存されます。

- コメントに関する情報については、「レポート
  コマンドの挿入」の章の「プログラマのコメントを挿入」トピックを参照して下さい。
- 式および変数に関する情報については、「式および変数の使用」の章を参照して下さい。
- フローコントロール文の情報については、「フローコントロールを使用した分枝」の章を参照して下さい。

測定ルーチンを閉じて終了する

- ファイル **|**
  閉じるを選択するとアクティブな測定ルーチンが保存され閉じます。測定ルーチンが保存されていない場合、ファイルに名前を付けて保存するように指示されます。
- ファイル **|**
  終了を選択すると現在の測定ルーチンが終了します。保存していないデータがある場合、保存しないで測定ルーチンを終了するかどうかを問うメッセージが表示されます。測定ル

ーチンを保存するには、メッセージボックスで**いいえ**を選択して、**ファイル | 保存**または**ファイル | 名前を付けて保存**を選択します
(詳しくは、「測定ルーチンの保存」にある指示に従ってください)。

注記:各ウィンドウの X をクリックして、ソフトウェアで開いているすべてのサブウィンドウ (レポートウィンドウ、 編集ウィンドウおよびグラフィックの表示ウィンドウ) を閉じると、PC-DMISは直ちに測定ルーチンを保存して閉じます。**ビュー (表示)**メニューを使用してウィンドウを隠すだけの場合、測定ルーチンは開いたままになります。

既存のPC-DMIS

現在の測定ルーチンとPC-DMISを終了するには、 **ファイル| 終了** コマンドを選択します。**File | Exit**を選択するとPC-DMISは終了前に現在の測定ルーチンを自動的に保存します。